

## 編 集 後 記

本誌の編集委員を拝命し、もう2年を過ぎようとしています。皆様のお陰を持ちまして、本誌は電子ジャーナルとなりましても、順調に投稿数を維持し、またアクセス数も1年間で100万件を超えています。従って、編集委員は、毎日、査読に追われる日々であります（結構きついお仕事です）。本誌は臨床神経学のアップデートな情報を会員の皆様に提供している媒体として極めて有意義であると考えております。今後も会員の皆様からのさらなる投稿をお待ち申し上げますので、よろしくお願い致します。

さて本誌は、筆頭著者が若い会員である症例報告が多いのも特徴です。若い先生方が、その論文作成過程において、論理的思考を醸成し、臨床の文章を推敲する力を身につけて頂ければ、編集委員としてもうれしい限りです。私も含め多くの日本の神経内科医が本誌の記載から自らの診療を顧みて診断や治療をおこなっている現状を踏まえれば、本誌は日本の神経内科医の診療レベルのバロメーターとも言えます。どうか、若い会員におかれましては、この点もご留意賜り、独善に陥ることなく、十分に過去の論文を精査して頂き、論理展開が明快なレベルの高いかつ投稿規定に準拠した論文を投稿されることをお願い申し上げます。

最後に雑感ですが、いまの編集委員や査読委員は、編集委員長の編集方針に従い、査読は極めて教育的に記載されており、また投稿論文は温かく育てましょうという理念でおこなわれています。正直、引用の足りない論文を明示し、置き換える文章まで査読に記載して送る場合も多いです。自分が最初に本誌に投稿した時には、編集委員のきつい？、時として理不尽？な査読内容に、学会事務局にお電話して、「誰が査読者が教えて！」（まあ…当然教えてくれる訳ではないのですが…若いですな…笑。後で当時の主任教授に「査読者の言葉は神様の言葉と思え！」と怒られました…笑）と言った時代の査読内容とは、世代も違うとはいえ隔絶した感じがいたします。まあ、どちらがよいのかは、いろいろな見方で判断がかわりますので、後世にその判断は譲りますが、少なくとも投稿規定を遵守し、ちょこっとだけ「臨床神経学」は日本の神経学の診療水準を示す学会誌であることを、著者は念頭にお持ち頂き、プライドを持って、十分に推敲なされた上で、作成してお送り頂きたく心よりお願い申し上げます。

（亀井 聡）

### 〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 鈴木 則宏      編集副委員長 河村 満  
 編集委員 荒木 信夫   飯塚 高浩   池田 昭夫   亀井 聡  
          瀧山 嘉久   西野 一三   野村 恭一   星野 晴彦  
 編集委員（幹事兼任） 園生 雅弘   高尾 昌樹   森 秀生

「臨床神経学」 第55巻 第4号      平成27年4月1日発行  
 編 集 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル      一般社団法人日本神経学会  
 発 行 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル      高 橋 良 輔  
 印 刷 所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入      中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル  
 日 本 神 経 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>